



安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2023/12/19
SDS整理番号 01276252

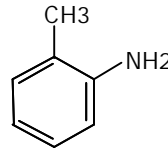
製品等のコード : 0127-6252、0127-5232

製品等の名称 : o-トルイジン (オルト-トルイジン、オルトトルイジン)

推奨用途 : 試薬

参考: その他の用途 (当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。) アゾ系及び硫化系染料、色素原料、溶剤、ゴム薬品、有機中間物 など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体 : 区分4
自然発火性液体 : 区分に該当しない

健康に対する有害性

急性毒性 (経口) : 区分4
急性毒性 (経皮) : 区分に該当しない [区分5(国連GHS分類)]
急性毒性 (吸入: ミスト) : 区分4
皮膚腐食性/刺激性 : 区分に該当しない [区分3(国連GHS分類)]
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2A
発がん性 : 区分1A
特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 区分1 (膀胱、腎臓、血液)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 区分1 (血液系)

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期(急性) : 区分1
水生環境有害性 長期(慢性) : 区分1

注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

可燃性液体
飲み込むと有害 (経口)
皮膚に接触すると有害のおそれ (経皮)
吸入すると有害 (ミスト)
軽度の皮膚刺激
強い眼刺激
発がんのおそれ
膀胱、腎臓、血液の障害
長期又は反復ばく露による血液の障害
水生生物に非常に強い毒性
長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
 ミスト、蒸気などを吸入しないこと。
 取扱い後は、よく手を洗うこと。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面、呼吸用保護具を着用すること。
 環境への放出を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。
 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 眼に入った場合: 水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察、手当を受けること。
 気分が悪い時は医師に連絡すること。
 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診察、手当を受けること。
 眼の刺激が続く場合: 医師の診察、手当を受けること。
 漏出物を回収すること。

【保管】

日光を避け、容器を密閉し換気の良い冷暗所(2~10℃)に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
化学名	: o-トルイジン (別名) 2-アミノトルエン、2-メチルアニリン、 2-メチルベンゼンアミン、2-メチルベンゼン-1-アミン、 o-メチルフェニルアミン、2-アミノトルエン、 o-メチルアニリン、o-アミノトルエン、o-トリルアミン、 オルト-トルイジン、オルトトルイジン (英名) o-Toluidine、2-Aminotoluene、 1-Amino-2-methylbenzene、o-Methylaniline、 o-Methylaniline、O-Toluidine (EC名称)、 Benzenamine、2-methyl- (TSCA名称)
成分及び含有量	: o-トルイジン、99.0%以上
化学式及び構造式	: C7H9N、CH3C6H4NH2、構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	: 107.15
官報公示整理番号	化審法: (3)-186 安衛法: 4-(12)-293
CAS No.	: 95-53-4
EC No.	: 202-429-0
危険有害成分	: o-トルイジン

4. 応急措置

吸入した場合	: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	: 直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。 皮膚を多量の水と石鹸で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は医師の手当を受ける。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	: 直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。 まぶたを親指と人さし指で拡げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用していて固着していなければ除去し、洗浄を続ける。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
飲み込んだ場合	: 速やかに、口をすすぎ、うがいをする。 大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 けいれんや意識混濁がある時又は意識がもうろうとしている時には吐か

せてはいけない(窒息させたり、吐いた物が気管に入って肺炎になることがあるため)。

意識がない時は、何も与えない。

気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。

予想される急性症状及び遅発性症状:

吸入した場合: 紫色(チアノ-ゼ)の唇や爪、紫色(チアノ-ゼ)の皮膚、錯乱、めまい、頭痛、息切れ、脱力感。

皮膚に付着した場合: 吸収される可能性あり。発赤、紫色(チアノ-ゼ)の唇や爪、紫色(チアノ-ゼ)の皮膚。他の症状については「吸入」参照。

眼に入った場合: 発赤、痛み。

飲み込んだ場合: 紫色(チアノ-ゼ)の唇や爪、紫色(チアノ-ゼ)の皮膚、めまい、頭痛、息苦しさ。他の症状については「吸入」参照

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 本製品は可燃性である。
粉末、二酸化炭素、泡(耐アルコール泡)、水噴霧
大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
- 使ってはならない消火剤 : 棒状注水(本品があふれ出て、火災を拡大するおそれがある。)
特有の危険有害性 : 可燃性物質: 燃えるが、容易に発火しない。
加熱により容器が爆発するおそれがある。
火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
- 特有の消火方法 : 引火点が低い: 散水以外の消火剤で消火の効果がない大きな火災の場合には散水する。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
容器内に水を入れてはいけない。
消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。
皮膚、眼など身体とのあらゆる接触を避ける。
蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。
密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
- 環境に対する注意事項 : 河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
回収、中和 : 乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。
大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて密閉できる空容器に回収する。
大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材 : 危険でなければ漏れを止める。
漏洩エリア内で稼働させる設備・機器類は接地する。
蒸気抑制泡は蒸気濃度を低下させるために用いる。
- 二次災害の防止策 : 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
周辺の発火源を速やかに取除く。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
技術的対策 : 裸火禁止、火花禁止、禁煙。強力な酸化剤との接触禁止。
引火点(85)以上で使用する場合は、工程の密閉化および防爆型換気装置を使用する。
ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
指定数量以上の量を取扱う場合、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行なう。
指定数量以上の危険物を貯蔵し、取り扱う場合は消防法に基づく許可が必要で、危険物貯蔵所に保管する。
指定数量の1/5以上、1未満(少量危険物)の場合も、少量危険物貯蔵所に保管し、法の規制を受け、最寄の消防署に届出を行う必要がある。
指定数量の1/5未満の危険物の貯蔵・取り扱いについては届出の必要はない。
炎、火花または高温体との接触を避ける。

局所排気・全体換気	:	必要に応じて静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性の物を用いる。 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。 防爆型の換気装置を設置する。 作業場には囲い式フードの局所排気装置又はプッシュプル型換気装置を設置する。 密閉された装置、機器又は局所排気を使用しなければ取扱ってはならない。 蒸気は空気より重く、床に沿って移動することから、床面に沿って換気する。
安全取扱い注意事項	:	すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しない。 眼に入れない。 接触、吸入又は飲み込まない。 炎、火花または高温体との接触を避ける。
接触回避 保管 技術的対策	:	保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
保管条件	:	容器は遮光し、冷蔵庫(2~10℃)に密閉して保管する。 光のばく露や高温を避けて保管する。 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管する。-禁煙。 火気を避けて保管する。 容器を密閉して換気の良い場所で保管する。 一定の場所を定めて、施錠して保管する。 貯蔵する所には、「火気厳禁」の表示を行う。 貯蔵する所には、白地に赤枠、赤文字で「医薬用外劇物」の表示を行う。 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
混触危険物質 容器包装材料	:	強酸化剤、強酸、特に硝酸 ガラス、ステンレス

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	:	1ppm
許容濃度	:	日本産業衛生学会 1ppm、4.4mg/m3 (皮膚吸収あり) ACGIH TLV-TWA 2ppm (皮膚吸収あり)
設備対策	:	防爆の電気・換気・照明機器を使用する。 作業場には防ばく型の局所排気装置またはプッシュプル型換気装置を設置する。 静電気放電に対する予防措置を講ずる。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
保護具	:	呼吸器保護具 (有機ガス用防毒マスク) を着用する。 手の保護具 : 保護手袋 (ネオプレン製など) を着用する。 眼の保護具 : 眼の保護具を着用する。 保護眼鏡 (普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
皮膚及び身体保護具	:	長袖保護衣を着用する。 必要に応じて顔面用の保護具を着用する。
衛生対策	:	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	:	液体
性状	:	無色 ~ 微黄色
色	:	特異臭 (アニリン様の臭い)
臭い	:	データなし
pH	:	-16
融点	:	データなし
凝固点	:	データなし

沸点	: 200
引火点	: 85 (密閉式)
可燃性	: 可燃性
爆発範囲	: 下限 1.5vol% 上限 データなし
蒸気圧	: 34.5 Pa (25)
相対ガス密度 (空気 = 1)	: 3.7
密度又は相対密度	: データなし
比重	: 0.998~1.005(20/4)
溶解度	: 水に混和しにくい (溶けにくい)。 (約1.5g/100mL、25) エタノール、エーテルに混和する。
オクタノール/水分配係数	: log Pow = 1.32
発火点	: 482
分解温度	: データなし
粘度	: 3.390 mPa・s (3.390cP) (25)
動粘度	: データなし
粒子特性	: データなし
GHS分類	
引火性液体	: 引火点は85 (密閉式) は、>60 かつ 93 であることから、 区分4とした。 可燃性液体 (区分4)
自然発火性液体	: 発火点は482 (HSDB,2011) であり、常温の空気と接触しても 自然発火しないことから、区分に該当しないとした。

10. 安定性及び反応性

安定性 (反応性・化学的安定性)

	: 通常の実験条件下において安定である。 空気や光の曝露により、変質し赤褐色に着色する。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤、特に硝酸と反応する。
避けるべき条件	: 高温、日光、光、火源、静電気、スパーク
混触危険物質	: 強酸化剤、強酸、特に硝酸。
危険有害な分解生成物	: 加熱分解により、一酸化炭素、窒素酸化物のガス、ヒュームを生じる。

11. 有害性情報

急性毒性	: 経口 ラット LD50 = 670 mg/kg (SIDS (2005)) 飲み込むと有害 (経口) (区分4) 経皮 ウサギ LD50 = 3,250 mg/kg (SIDS (2005)) 区分5とした (国連GHS分類)。 ただし、分類JISでは区分に該当しないである。 皮膚に接触すると有害のおそれ (経皮) (区分5) 吸入 (蒸気) 分類できない。 吸入 (蒸気) ラット LC50 = 3.827 mg/L/4h (SIDS (2005)) 吸入すると有害 (ミスト) (区分4)
皮膚腐食性	: ウサギ6匹を用い、原液を皮膚に24時間閉塞適用した試験で、紅斑の平均スコアは2.3 (24時間)、2.0 (48時間)、1.7 (72時間) であり、浮腫の平均スコアは2.0 (24時間)、0.3 (48時間)、0.3 (72時間) であった (SIDS (2005))。 以上から3日間連続の平均スコアは浮腫は<1.5となるが、紅斑で 1.5、<2.3、となることから、区分3とした (国連GHS分類)。 ただし、分類JISでは区分に該当しないである。 軽度の皮膚刺激 (区分3)
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: ウサギの結膜嚢に本物質原液0.1 mLを適用した試験で、軽度の角膜混濁、軽度~中等度の結膜浮腫と発赤を認め、8日間の観察期間中に回復せず、一次刺激性スコア (A01に相当) は31.3/110で強い刺激性 (highly irritating) との評価結果 (SIDS (2005)) に基づき、区分2 Aとした。 強い眼刺激 (区分2A)
呼吸器感作性	: 分類できない。
皮膚感作性	: 分類できない。
生殖細胞変異原性	: 区分に該当しない。 マウスに腹腔内または経口投与後の骨髄を用いた複数の小核試験、およびマウスに腹腔内投与による染色体異常試験 (体細胞in vivo変異原性試験) において、全て陰性結果が報告されている (SIDS (2005) 、NTP DB (2011) 、NITE初期リスク評価書 202 (2008)) 。
発がん性	: IARCの発がん性評価においてGroup 1 (ヒトに対して発がん性がある) に分類されている (IARC 99 (2010)) ことから、区分1 Aとした。 発がんのおそれ (区分1A)
生殖毒性	: 分類できない。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: ヒトへの影響として、メトヘモグロビンの形成、頭痛、疲労感、呼吸困難、

神経障害、腎臓や膀胱への刺激を起こして血尿をもたらす (NITE初期リスク評価書 202 (2008)) と記載され、その他、急性ばく露した労働者で、排尿困難、乏尿、血尿、膀胱炎、膀胱上皮の変性などが認められた (DFGMAK-Doc.3 (1992)) との記載がある。また事故によるばく露でメトヘモグロビン血症を発症し、呼吸困難、チアノーゼ、血尿を示した症例報告 (NITE初期リスク評価書 202 (2008)) もある。実験動物では、ラットに200 mg/kgを経口投与後8時間でのメトヘモグロビン濃度は11.6% (SIDS (2005)) であり、ネコに50 mg/kgを経口投与後、嘔吐、チアノーゼ、散瞳、鈍麻の症状に加え、4時間後にメトヘモグロビン濃度が約60~70%を示した (SIDS (2005)) との報告がある。以上のヒトの情報、および動物の所見 (ガイダンス値区分1相当) に基づき、区分1 (腎臓、膀胱、血液) とした。膀胱、腎臓、血液の障害 (区分1)

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

: 本物質および/またはp-トルイジンに、数ヶ月~10年以上職業ばく露を受けた81人を調査した結果、20人にメトヘモグロビン血症が見られた (DFGMAK-Doc.3 (1992)) との報告があり、動物試験では、ラットに35 mg/kg/day を2.5ヶ月間経口投与 (90日換算値; 42 mg/kg/day) した試験で、メトヘモグロビン血症、赤血球減少症、網状赤血球増加症 (NITE初期リスク評価書 202 (2008))、ラットに225 mg/kg/dayを5、10 または20 日間強制経口投与 (90日換算値; 50 mg/kg/day) した試験で、病理組織学的所見として脾臓のうっ血、髄外造血亢進及びヘモジデリン沈着と骨髄の細胞増多 (NITE初期リスク評価書 202 (2008)) がそれぞれ報告されている。以上から動物試験では区分2のガイダンス値範囲内であるが、ヒトの情報により区分1 (血液) とした。長期又は反復ばく露による血液の障害 (区分1)

誤えん有害性

: 分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性): 甲殻類 (オオミジンコ) 48時間EC50 = 0.52mg/L (SIDS, 2006) 水生生物に非常に強い毒性 (区分1)

水生環境有害性 長期(慢性): 急速分解性がなく (4週間でのBODによる分解度: 5% (既存点検, 2000)、甲殻類 (オオミジンコ) の21日間NOEC = 0.0126 mg/L (SIDS, 2006他)) であることから、区分1とした。長期的影響により水生生物に非常に強い毒性 (区分1)

残留性・分解性

: 難分解性。BOD分解度 = 5%

生物蓄積性

: 低濃縮性。Log Kow = 1.32

土壤中の移動性

: データなし

オゾン層への有害性

: 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

: 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。都道府県知事などの許可 (収集運搬業許可、処分業許可) を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票 (マニフェスト) を交付して廃棄物処理を委託する。廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。(参考) 燃焼法 可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、又はケイソウ土、木粉 (おが屑) 等に吸収させて、アフターバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室で焼却する。

汚染容器及び包装

: 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 : 153

国際規制

海上規制情報 (IMDGコード/IMOの規定に従う)

UN No. : 1708

Proper Shipping Name : TOLUIDINES, LIQUID

Class	: 6.1 (毒物)
Sub risk	: -
Packing Group	: II
Marine Pollutant	: Yes (該当)
Limited Quantity	: 100mL
航空規制情報 (ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う)	
UN No.	: 1708
Proper Shipping Name	: Toluidines, liquid
Class	: 6.1
Sub risk	: -
Packing Group	: II
国内規制	
陸上規制情報 (消防法、毒劇法、道路法の規定に従う)	
海上規制情報 (船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う)	
国連番号	: 1708
品名	: トルイジン (液体)
クラス	: 6.1
副次危険	: -
容器等級	: II
海洋汚染物質	: 該当
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類	: Y (オルトトルイジン)
少量危険物許容量	: 100mL
航空規制情報 (航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う)	
国連番号	: 1708
品名	: トルイジン (液体)
クラス	: 6.1
副次危険	: -
等級	: II
少量輸送許容量	: 1L
特別の安全対策	: 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れののないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する。 危険物の運搬中、危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報する。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 重量物を上積みしない。 車輛等による運搬の際にはイエローカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

労働安全衛生法	: 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (政令番号 第406号「トルイジン」、対象重量%は 0.1) 名称等を通知すべき危険物及び有害物 (政令番号 第406号「トルイジン」、対象重量%は 0.1) (別表第9) 特定化学物質障害予防規則 特定化学物質等 第2類物質、特定第2類物質 作業環境評価基準
化審法	: 優先評価化学物質の取り消し (官報公示日: 2017/03/30) No.57「o-トルイジン」 旧第二種監視化学物質 No.402 (官報公示日: 2000/09/22) 旧第三種監視化学物質 No.34 (官報公示日: 2006/07/18)
消防法	: 危険物第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体 指定数量200L、危険等級 (法第2条第7項危険物別表第1)
毒物及び劇物取締法	: 劇物「トルイジン」(法第2条別表第2の6 1) 包装等級
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	: ・種別 「特定第1種指定化学物質」 ・政令番号 「1-346」 ・管理番号 「299」 ・政令名称 「トルイジン」
	ただし、R5年3月31日まで ・種別 「第1種指定化学物質」 ・政令番号 「1-299」

- ・政令名称 「トルイジン」
- 船舶安全法 : 毒物類・毒物 (危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
- 航空法 : 毒物類・毒物 (施行規則第194条危険物告示別表第1)
- 海洋汚染防止法 : 有害液体物質 Y類物質「オルトトルイジン」
- 大気汚染防止法 : 有害大気汚染物質「トルイジン」
(政令番号: 中環審第9次答申の140)
- 輸出貿易管理令: キャッチオール規制 (別表第1の16項)
HSコード: 2921.43
第29類 有機化学品
・輸出統計番号 (2023年4月版): 2921.43-000
「アミン官能化合物」
- 芳香族モノアミン及びその誘導体並びにこれらの塩: トルイジン
及びその誘導体並びにこれらの塩」
・輸入統計番号 (2023年4月1日版): 2921.43-000
「アミン官能化合物」
- 芳香族モノアミン及びその誘導体並びにこれらの塩: トルイジン
及びその誘導体並びにこれらの塩」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

取扱注意事項:

本製品の取扱いは毒物劇物取締法の規定に従い、購入、保管、使用及び廃棄には細心の注意を払うこと。毒物劇物取扱等の責任者は、必要に応じ取扱う者に対し労働安全衛生、漏洩防止、緊急時の対応、環境影響、使用記録、保管庫施設、紛失盗難防止などについて教育、訓練を実施し、事故の予防に努めること。

参考文献:

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM	
GHS分類結果データベース	nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

リスク評価報告書「化学物質のリスク評価検討会報告書」(厚生労働省 H28年7月28日発表)
福井県の化学工場における膀胱がん発症事案に関する労働安全衛生総合研究所による災害調査において、現在の作業及び過去の作業におけるばく露防止対策が不十分であり、労働者がオルトトルイジンにばく露していたと示唆された。
また、全国の労働基準監督署において、オルトトルイジンを製造し、又は取り扱う事業場の状況を調査したところ、相当数の事業場において、多くの労働者がオルトトルイジンを取り扱う作業等に従事している実態が明らかになった。

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。